
第3回 昭島市総合基本計画審議会 議 事 要 旨

[日 時] 平成 21 年 8 月 7 日 (金) 19:00 ~ 20:30

[場 所] 昭島市役所 3 階 庁議室

[出席者]

1 委員

石崎忠司会長、小川仁副会長、井ヶ田博委員、稲員とよの委員、岡田明恵委員、小野正敏委員、國井俊彦委員、小林和子委員、竹村茂己委員、中野久史委員、中村圭子委員、平石正美委員、平畑文興委員、福崎誠委員、福田晃委員、松本芳之委員、矢崎まゆみ委員
(欠席者) 大田眞也委員、川元英貴委員、長谷川祐司委員

2 事務局

日下企画部長、早川企画政策室長、佐藤総合基本計画担当主幹、別所主査

3 コンサルタント会社

白鳥、田中

4 傍聴者 1 名

[日 程]

1 基本構想素案について(その1)

- (1) 基本構想の策定にあたって
- (2) まちづくりの理念
- (3) まちづくりの視点

2 その他

[配布資料]

- ・ 第3回昭島市総合基本計画審議会日程
- ・ 資料1 政策指標50の達成状況一覧(修正版)
- ・ 資料2 第五次昭島市総合基本計画における将来人口推計結果
- ・ 資料3 昭島市基本構想素案

[議事要旨]

1 あいさつ

小川副会長による開会の挨拶が行われた。

2 修正及び追加資料について

【説明】

事務局より、資料 1「政策指標 50 の達成状況一覧（修正版）」及び、資料 2「第五次昭島市総合基本計画における将来人口推計結果」に基づき以下のとおり説明があった。

(1) 資料 1 政策指標 50 の達成状況一覧（修正版）

指標 50「昭島に今後とも住み続けたいと思う人の割合」の現状値を平成 20 年度の市民意識調査の結果に改めたものである。

(2) 資料 2 第五次昭島市総合基本計画における将来人口推計結果

人口推計の結果をグラフにしたもので、人口を 4 区分ごとに、棒グラフで全体の占める割合、折れ線グラフで増減を示している。今後は少子・高齢化が進んでいく状況が明らかになる資料となっている。

また、前回、今後の財政フレームについての資料提示を求めのご意見をいただいた。財政担当課と協力し資料作成に取り組んだところであるが、不確定要素が多く、数値化には困難性が生じている。従って、今後予想される歳出を中心に、財政状況の見込みが把握できるような資料の準備を進めている。資料が整った時点で審議会にお示しさせていただくので、今しばらくお時間を頂戴したい。

3 基本構想素案について（その 1）

【説明】

事務局より、「資料 3 昭島市基本構想素案」の説明及び朗読があった。

【質疑応答・意見】

初回の審議会で、第四次基本計画の総括を踏まえた上で、第五次の案を検討するという約束事があったはずであるが、どうなっているか。【福田委員】

基本構想はあくまでも理念が中心で、性格的に総括がしにくいものでもあり、基本構想でいう大まかな括りではなく、基本計画の施策の括りの中で集約を図っている。全体的な計画の総括については、施策の大綱を踏まえながら、基本計画の検討に際し、施策ごとの状況、課題をとりまとめ、ご提示する準備を進めている。【事務局】

まちづくりの理念や、基本構想の大まかな考え方に誤りはなかったということなのか。

【福田委員】

昭島市の考え方としては、「総合基本計画策定方針」及び「基本構想策定要領」でお示ししている。基本的な考え方として、第四次基本構想の「人間尊重」「環境との共生」という二つの理念を継承するものとしており、第四次計画の方向性は間違ったものではないと理解している。もちろん今後ともやるべきことは残されており、これらの課題を踏まえ、発展的に計画を進めていきたいと考えている。【事務局】

基本構想の策定の背景として、社会の現状や課題が指摘されているが、これらは日本全体のことでもあるので、昭島市独自が抱えている課題についても触れるべきではないか。【松本委員】

ご指摘のとおり、基本構想には日本、そして世界を含めた課題を書き込んでいる。これを受けどのようなまちづくりが良いのか、理念的なものをご検討いただき、それを踏まえ、基本計画という具体的な施策の検討をお願いするといった手順となる。「基本計画の前提」の中で、昭島市独自の問題に触れ、状況の分析にもつとめながら、基本構想の検討をお願いする予定である。【事務局】

一般的にまちづくりというと、やはりハード面の印象が強いと思う。まちづくりの理念の中に「人間尊重」を柱として置いた時に、まちづくりという言葉には若干違和感を覚える。地域社会、我々が住んでいるまちをどうするか、という意味の表現に置き換えた方が馴染みやすいのではないか。【平石委員】

先ほどの質問では、第四次計画から、第五次計画に移るなかで、方向性は変わっていない、理念は引き継いで行くとのことだったが、世の中も変化してきているので、平石委員の指摘のような部分も当然生じてくる。もちろんみんなできちんと検討していけばよいのだが、このところがそのままずっと通ってしまうのは、なんとなく違うような気がして、先ほど質問した。四次が間違っていないからそのままというのも一つの総括ではあるが、これをもとに細かい計画を作っていくのだから、このところはきちんと踏まえた上で、検討していく必要がある。【福田委員】

第四次をベースに発展的に第五次をつくるという考え方は理解できるが、「策定の背景」のところで「時代背景を的確にとらえる」とある。資料2を見ると、人口は増えるが生産年齢人口は減っていることが明らかなことから、税収も減ることが推測される。そういった場合、発展的にどう展開していくのか、意識の変革が明確に出てこない、この計画は説得力のないものになるのではないか。【福崎委員】

理念というのはこうありたいという価値観のことであるので、極めて象徴的なものである。「人口構成の変化に応じた内容を盛り込むべきである」という内容は理念というよりも実現ということであるので、それにふさわしい部分で取り上げれば生きてくるのではないか。また、市民感覚で生活してみてどこに問題があるのかが一番大切で、そのようなことを話し合っていく必要がある。一般の市民にとっては“地域社会”という言葉よりは“まち”と言った方が身近に感じられるのではないかと思う。そのようなことも基本計画の中では、配慮する必要があるのではないか。【石崎会長】

まちづくりというとハードな部分を最初にイメージする。理念の内容にふさわしいものか、若干疑念が生じるとのご指摘であろうかと思う。まちづくりはソフトとハードが一体となって進めるものでもあり、人口が3万人程度の小さなまちから10万を超えるようなまちに成長してきた、このような歴史を踏まえ、多くの市民にはまちづくりという響きをご理解いただけるとの思いで、今回ご提案させていただいた。中身は理念であり、その内容は十分ご理解をいただけるものと考えている。このような背景についてもご理解をいただきたい。【事務局】

もちろんまちづくりという言葉にソフトな面が含まれるのは十分理解している。ただし、10年後に計画が評価される際に、厳しい財政状況からハードな部分はほとんどで

きない、まちづくりが進んでないと、批判を受けるようだと困るかなと、若干老婆心ながら指摘した部分もある。【平石委員】

せっかく良い議論となったので、次回の審議会までに、従来から一步進んだニュアンスが盛り込める表現があるかどうか、事務局に検討してもらい、再度検討する形でいかがでしょうか。【石崎会長】

行政に携わるものとしては、まちづくりというと、財政が厳しい中、市民との協働をどう進めるかといったソフト的なイメージが強く、そのような意味では若干、市民の皆様が受けるイメージと異なるようで、非常に貴重なご意見を頂戴した。この部分については、事務局で検討し、次回にご掲示させていただくのでよろしく願います。

【事務局】

私は実際に昭島に住んでいないので、「あきしまらしさ」ということが実際何を指すのかわかりにくい部分がある。説明していただければと思う。【平石委員】

地下水 100%の水道水がおいしいとか、緑へのアクセスが良いとか、こういったことも昭島らしい魅力の一つであると思うが、「あきしまらしさ」が何かと問われると、なかなか、これだと言い切ることができない面もある。そのなかで、あえて「あきしまらしさ」を掲げたのは、基本構想の「品格のあるまち」という考え方が、「あきしまらしさ」につながると考えたからである。「品格のあるまち」をめざすなかで、昭島の個性とか魅力とかが見出され、「あきしまらしさ」として位置づけられ、他の地域に発信されていく。そういった「あきしまらしさ」を創りあげていくという面も踏まえて、この言葉を使わせていただいているので、ご理解をお願いします。

「品格のあるまち」というのは私も良いと思うが、昭島といったときに、やはり自然、昭和公園であり、多摩川であると思う。自然環境が豊かということも、「あきしまらしさ」の一つであると思う。【小林委員】

多摩川の自然環境は良いが、ホームレスが多く、子供たちには行くなと言っている。また、河川敷は国土交通省の管轄で、電気施設の設置は不可であり、トイレ一つ作るのも大変である。環境面が良くても、現実の問題としてそのようなことがあることも認識いただきたい。【井ヶ田委員】

「あきしまらしさ」のあるまちづくり、とあるが、「まちづくりの視点」(1)～(4)が活かされることにより、「あきしまらしさ」が現れると思うので、あえて入れる必要があるのかということもある。もう一つは、四次と五次でその理念がそんなに変わるものではないと思っている。基本計画のほうになるかもしれないが、要は、どう強弱をつけていくのかだと考える。【中野委員】

行政、地域、予算の枠があり、そんなに変わったものができるわけではないが、アイデンティティとして何か旗を掲げていくということは大切である。四次から五次に変わって、これが出たのは良かったと思う。【松本委員】

考え方として、まちづくりの視点(1)～(4)までを実現すれば、自ら昭島市の特徴が出る、ということだと思うが、やはり歴史や立地条件などを大切にしたい、昭島市の個性を打ち出しても良いのではないかと。昭島市といえば誰が聞いてもすぐに出てくるような言葉が欲しいというものが、ここに盛り込まれた思いである。では、市民の方は何を一番アイデンティティあるものにしたいのか、もう少しみ取る必要があるが、委員の皆様の見解では、やはり多摩川、緑といったところではないかと思うので、ここ

に具体的な言葉を入れられればはっきりするのではないかと考える。【石崎会長】
私は「水辺の楽校」に関わっているが、子どもたちが遊べる小池や水路が一度の台風で全て埋まってしまい、現在、隣の本線は清流であるが、小池の方はガスが湧いている状態である。清流、清流といっても、そのような現状も多々あり、多摩川の自然を考える上で、是非現地に行って見ていただきたい。【竹村委員】

「人間尊重」と「環境との共生」、これは批判しようもない共通の理念であり、まずそれを出すのは良いと思う。あまり「あきしまらしさ」にこだわってしまうと、大きな理念としての目標が狭くなってしまったり、レベルが落ちてしまったりということも懸念される。ただ、前回の総合基本計画と比べると、配列や書いてあることはほとんど同じであり、新鮮味を感じないので、もう少し工夫が必要かと思う。もう一つ、私は30年昭島市に住んでいるが、多摩地区の他の市と比べ、自然に恵まれた緑あふれるまちだとは思わない。むしろ違うイメージを持っている。【岡田委員】

確かに、理念はいわゆる不変のものであるべきだが、それを飾る言葉というのは時代に応じ、表現方法を変える必要があると思う。もう一つ、昭島の“売り”または“ブランド”というのは、皆がどう感じるか、どう感じて欲しいか、どんな思いを昭島の“ブランド”として持って欲しいか、そういったものを作り上げていくのも一つの方法ではないかと思う。現実の問題がいろいろあるにしても、そこに目指しているものを皆で作っていき、というのが「あきしまらしさ」になるのではないかと思う。【國井委員】

まちづくりの視点(1)～(4)が、抽象的なものに対し、(5)は具体的な問題であるので、賛否両論になるのではないか。もう少し抽象的な言葉に変えることができるか、他の言葉があるのか、市側の思いとの接点が別にできるか、一回事務局に戻してみてもどうか。【石崎会長】

「まちづくりの理念」及び「まちづくりの視点」に関するご指摘については、事務局の方で検討し、次回の審議会でご提示させていただく。【事務局】

全体の具体的な構成が非常に把握しにくいと感じるが、フォーマットの問題として、作り方や情報の出し方を話し合う機会はあるのか。【松本委員】

当然、市民の方々が見るという前提であるので、わかりやすく写真や図表を入れる構成を考えている。レイアウト等についてはできる限り資料として提示し、審議いただくかたちになると思うが、細かいところまでは難しいと考えており、審議いただく内容は、文章の文言的なレベルと数値等の問題になるかと思う。ただし、情報が多い方がより良いものができると思うので、機会をとらえ、是非ともご意見を頂戴したいと思う。【事務局】

4 その他

特段の案件なし。

次回の審議会は9月11日(金)の19時から開催することを確認し、閉会した。